

平成23(2011)年度 吹田市の新指定文化財！



NO. 16 ペーパークラフト 「神社建築 一間社流造」
いっけんしゃながれづくり

(今回新指定の蔵人稲荷神社本殿、江坂素盞鳴尊神社本殿等の一間社流造を参考に作成したものです。)

本年4月11日に新規に市指定有形文化財2件、市指定無形民俗文化財1件、市指定天然記念物1件が指定されました。今号では新指定文化財等の紹介を中心に特集を組みます。

新指定文化財の概要

平成23(2011)年4月11日指定

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 市指定有形文化財 | 蔵人稲荷神社本殿（1棟） |
| 2. 市指定有形文化財 | 江坂素盞鳴尊神社本殿（1棟） |
| 3. 市指定無形民俗文化財 | 吉志部神社のどんじ |
| 4. 市指定天然記念物 | ヒメボタル生息地とそのヒメボタル |

平成23(2011)年4月11日、新たに有形文化財2件、無形民俗文化財1件、天然記念物1件が、吹田市の指定文化財となりました。

有形文化財は、「蔵人稲荷神社本殿」（1棟）と「江坂素盞鳴尊神社本殿」（1棟）の2件です。ともに建築時期が江戸時代前期までさかのぼることができる一間社流造の神社建築です。この2件の詳細については、本だよりの3・6頁をご覧ください。

無形民俗文化財は、「吉志部神社のどんじ」が指定を受けました。吉志部神社（岸部北4丁目所在）のどんじは、一般にどんじ祭りと呼ばれ、もっとも重要な神事とされ、毎年10月16日・17日に行われます。

どんじは、元禄8(1695)年には行われていた記録があります。かつては、岸部の旧村である小路・東・南の各村ごとに1年交代の当番人を出す限られた家だけが集まって行われていましたが、現在は、各旧村の神社氏子の人たちによって吉志部神社どんじ保存会が組織されて、神事が伝承されています。どんじでは、当番となる家でもち米を蒸した「白蒸」や「小判餅」と呼ばれる餅などの神饌が準備され、神社へ奉納されます。

天然記念物は、吹田千里緑地第4区（高野台3・5丁目、山田西2・3丁目）に生息す

るヒメボタルについて「ヒメボタル生息地とそのヒメボタル」として指定されました。

ヒメボタルは、メスがうしろばねの退化により飛ぶことができず、広範な移動ができないことから、急激な環境の変化への対応力が弱く、調和の保たれた生態系の中に生息する生物の象徴的存在として知られています。

吹田千里緑地第4区は、市街地化が進んだ吹田市内にあっては貴重な緑地帯であり、生物にとって良好な環境が保たれ、動植物が多く確認されています。ヒメボタルの生息は十数年前から確認されており、例年5月初旬から6月中旬に発光します。（賀納章雄）



吹田千里緑地第4区（高野池周辺）



吉志部神社のどんじ（どんじ奉獻）



吹田千里緑地第4区のヒメボタル

蔵人稲荷神社本殿

市指定有形文化財

蔵人稲荷神社は、榎坂村の内村であった蔵人村の鎮守社として崇敬されてきました。創立の沿革は詳らかではありませんが、元禄5(1692)年の記録には「境内」「本殿」「拝殿」「鳥居」などの記載があり、17世紀後期には既に現在のような神社景観がみられました。

本殿は、間口七尺のやや大型の一間社流造、銅板葺(元こけら葺)の建築物で、吹田市域において建築が17世紀後期にまでさかのぼることのできる数少ない一間社流造社殿の一つです。全体として簡素な意匠にまとめられており、装飾性を抑えた彩色のない素木造りは、質実な印象を与えます。

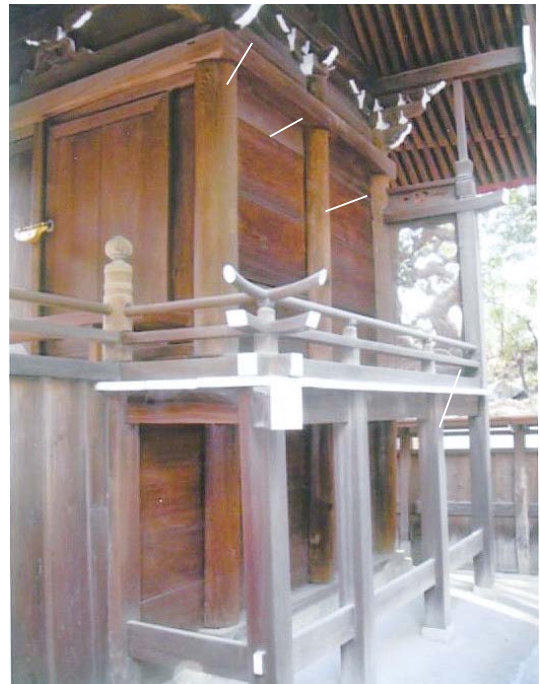
身舎の柱配置は、正面を一間、側面を二間とし、背面は正面の一間に対応させずに三間としています。

向拝廻りは、後世に行なわれた幾度かの修理において木階・浜床に改造がみられましたが、近年の保存修理によって創建当初の姿(木階五級と浜床)に復されています。蟬股や木鼻は古式なもので17世紀中～後期の様式を示し、身舎部分はおおむね当初のものを伝えていると考えられます。

このように蔵人稲荷神社本殿は、近世前期の姿を遺し、神社本殿建築の古式を今に伝える貴重なものです。(中岡宏美)



本殿正面



本殿妻北面



本殿 向拝柱と虹梁型頭貫



本殿向拝 蟬股



嘉永6(1853)年建造のものです。
市地域有形民俗文化財に登録されています。



古墳時代終末期(7世紀初め頃)
の凝灰岩製の家形石棺蓋石です。
明治初めに付近で出土したと伝
えられています。



油をかけて祈願すると歯痛が治るという
伝承があります。



ひでつな
渡辺英綱は江戸時代中期の和算家で、天明8(1788)年に榎坂の法泉寺に滞在中亡くなったといわれています。



明治12(1879)年建立の四角型
燈籠(神前型)の常夜燈です。



江戸時代の道標で、吹田街道から三国街道に通じる道の分岐点付近に設置されています。



蔵人稲荷神社、江坂素盞鳴尊神社の周辺には、他にも様々な文化財が残っています。こうした文化財を探訪し、昔に想いをはせるのも興味深いものです。



榎坂・蔵人の周辺図（明治末）
 （当図は現代の地形図に明治末の水田、集落等の情報を重ねて作成したものです。）



主屋、長屋門、土蔵、掛塀などの6棟の建造物からなります。主屋は江戸時代後期の建築物で、棧瓦葺ツシ二階造です。現在、一般公開をしていません。

<凡例>

-  丘陵
-  堤防等
-  水田、畑等
-  池、川等
-  古道等
-  集落

黒字：現在の名称



- 1 江坂素盞鳴尊神社
江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿
- 2 家形石棺
- 3 油かけ地蔵
- 4 渡辺英綱の墓
- 5 榎坂往来安全常夜燈
- 6 榎坂西道標
- 7 榎坂東道標
- 8 法泉寺
- 9 蔵人稻荷神社
- 10 榎原家住宅

(西本安秀作成)

江坂素盞鳴尊神社本殿

市指定有形文化財

素盞鳴尊神社は、感神宮とも江坂神社とも呼ばれ、旧榎坂村集落北方に鎮座します。創立年代は明らかではありませんが、遅くとも江戸時代初期には現在のような社頭景觀を整えていたとみられます。元禄5(1692)年には本殿、拝殿、石鳥居、宮道を備えていたとの記録があり、そのうち本殿と石鳥居は、現在の本殿と天和3(1683)年銘の石鳥居のこととみられます。

本殿は一間社流造、銅板葺(元こけら葺)です。身舎の柱配置は、正面の一間に対し側面二間、背面三間としており、蔵人稲荷神社に共通します。正面には千鳥破風が設けられていますが、市内の三間社以下の社殿で正面に千鳥破風を設ける例は当社をおいて他にありません。また社殿に施された華麗な彩色も当社殿の特色の一つです。

興味深いのは、素盞鳴尊神社本殿は、所在する地域・建築時期・形式において蔵人稲荷神社本殿と同じくしながら、全体として簡素な意匠の蔵人稲荷神社本殿に対し、素盞鳴尊神社本殿には華麗な彩色が施されており、両者が好対照をなしている点です。同じ建築でありながら、意匠に対する方向性の違いがみられる二つの社殿は、旧榎坂村と旧蔵人村の関係を考えるうえで重要な手がかりを提供しているのではないかと考えられます。

(中岡宏美)



本殿正面



本殿妻東面



本殿 向拝柱と虹梁型頭貫



本殿向拝 墓股

史跡吉志部瓦窯跡の整備

吹田市^{きし べ きた}岸部北4丁目の^{し きんざん}紫金山公園にある^き吉志部瓦窯跡は今からおよそ1200年前、延暦13(794)年に造営の始まった都、平安京の宮殿等に使用する瓦を生産した窯です。

昭和43(1968)年に一部の窯が調査され、昭和46(1971)年に国の史跡に指定されました。

吉志部瓦窯跡は丘陵の南斜面の下方に^{ひらがは}平窯が、上方に^{のぼり がは}登窯(^{あな かほ}窖窯)が東西方向に並べて築かれています。

これまでの調査で、平窯は吉志部神社の西側で12基見つかっていますが、全長約3.9m、幅約2.1mのほぼ同じ大きさで同じ構造の窯が同一線上に東西方向にほぼ6mの間隔で並んでおり、計画的に窯が造られたことが分かります。一方、登窯では^{うわぐすり}緑色の釉が掛かった瓦(^{りよく ゆう がわら}緑釉瓦)等が見つかっており、登窯は緑釉瓦等生産のための窯と考えられます。

また、神社東側では発掘調査が行われていないため詳しいことは分かりませんが、東側にも多くの平窯があると考えられ、およそ東西280mにおよぶ範囲で大規模な瓦生産が行われていたものと考えられます。

調査後、窯跡等は保存のために埋め戻されていましたが、この度、紫金山公園の再整備に伴い、瓦窯跡も整備されました。

紫金山公園は吉志部瓦窯跡等の歴史遺産を有し、さらに緑豊かな自然を残す公園であることから、窯跡の整備に当たっては、いかに分かりやすい整備を行うかを考えるとともに、一帯の自然環境の保全も考慮して、造成や樹木の伐採を行わずに整備しました。

整備されたのは神社より西側の平窯10基・登窯4基・溝3条で、10~20cm大の石を並べてその位置と平面形及び大きさを表しています。

また、説明板を設置すると共に隣接する市立博物館で実物大の平窯の模型と出土した瓦を展示していますので、合せてご覧下さい。

(増田真木)



平窯の模型（吹田市立博物館）



整備された吉志部瓦窯跡



平窯の整備状況



設置された説明板

秋季特別展

「さわるーみんなで楽しむ博物館」関連イベント

オープニングイベント「お茶会」

日時／9月4日(日) 午前11時30分～午後0時30分

吹田市立片山中学校茶道部

申込／不要

定員／先着100人、無くなり次第終了します。

「さわる展にふれる～博物館のモノをさわるということ～」

日時／9月10日(土) 午後2時～3時30分

講師／当館学芸員 五月女賢司

申込／不要

定員／先着120人

和太鼓演奏会「心に響くふるさとの音」

日時／9月11日(日) 午前10時30分～11時30分

演奏／郷土サークル野火

申込／不要

★「水濡れ資料(古文書・図書・写真)の吸水乾燥ワークショップ～『史料の救命士』ボランティアのお誘い」

日時／9月11日(日) 午後1時30分～3時30分

講師／近大姫路大学講師・歴史資料ネットワーク副代表
松下正和氏

服装／水を扱うので汚れてもよい服装

対象／中学生以上

定員／20人

申込締切／9月5日(月)必着。多数抽選。

「琴・三絃・尺八 演奏会」

日時／9月17日(土) 午前10時30分～正午

演奏／瀬良満理子氏、山崎智子氏、藤田慧山氏

申込／不要

定員／先着120人

★「さわっておどろくワークショップ『手学問のすゝめ』～感覚の多様性を呼び覚まそう!～」

日時／9月17日(土) 午後1時30分～2時30分
午後3時～4時

講師／国立民族学博物館准教授 広瀬浩二郎氏

定員／各16人

申込締切／9月7日(水)必着。多数抽選。

★「まん〇(まる)ねん土をつくって、美術館に展示しよう!」

日時／9月18日(日) 午後1時30分～3時30分

講師／陶芸家 宮本ルリ子氏

服装／汚れてもよい服、あるいは、エプロン持参

持ち物／エプロン、手ふきタオル、新聞紙1日分

対象／障がい者、幼児～大学生、付き添いの保護者

定員／30人

参加費／実費

申込締切／9月8日(木)必着。多数抽選。

ギター演奏会「♪残暑を吹き飛ばせ!ジョイントコンサート♪」

日時／9月19日(月) 午後2時～3時30分

演奏／秋田克英氏、福田由紀雄氏

申込／不要

定員／先着120人

「琵琶を触って、聴いて、魅了されて」

日時／9月23日(金) 午後2時～3時30分

演奏／大阪学院大学教授 シルヴァン・旭西・ギニャール氏

申込／不要

定員／先着80人

「点字の名刺やキーホルダーをつくろう!」

日時／9月24日(土) 午前10時～午後4時30分

指導／点訳の会「円」

申込／不要

定員／先着100人

「サウンド・テーブル・テニス(視覚障がい者の卓球)」

日時／9月24日(土) 午前10時～午後4時30分

指導／藤原博氏・栄子氏

申込／不要

「音声パソコンって知ってる?」

日時／9月24日(土) 午前10時～午後4時30分

指導／宮原晶子氏

申込／不要

「お宝探しゲーム」

日時／9月24日(土) 午前10時～午後4時30分

申込／不要

「タンDEM自転車(2人乗り自転車)で楽しもう!」

日時／9月25日(日) 午後1時～4時30分

指導／大阪府トライアスロン協会会員

大西健夫氏・長井敬二氏

申込／不要

★印のイベントは申込が必要。はがきまたはファックスに、イベント名、日時、住所、名前、電話番号を書いて、博物館へ。

*特に記載のないものは参加費が無料です。

吹田市立博物館だより 第47号

平成23(2011)年9月1日発行

吹 田 市 立 博 物 館

〒564-0001

吹田市岸部北4丁目10番1号

TEL. 06(6338)5500 FAX. 06(6338)9886